

主催挨拶



日本医師会会長・世界医師会前会長
横倉 義武

医療政策シンポジウム 2019 の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、テレビ会議で 20 の医師会に配信していることもあり、この会館に足を運ぶ地域の先生方が少なくなっていました。一方で、初めての試みとして、近隣の駒込駅、巣鴨駅、千石駅にポスターを貼らせていただいたり、また新聞に折り込み広告を実施したことで、それを目にしてご来場いただいた方々も多いかと思います。

医師の偏在対策につきましては、2017 年 12 月に厚生労働省「医療従事者の需給に関する検討会 医師需給分科会」において、1 年余に及ぶ議論の結果「第 2 次中間取りまとめ」が出されました。これを基に、2018 年 7 月、医師確保、医師偏在対策に係る医療法及び医師法の一部が改正されました。

この改正は、医師偏在の解消に向けた第一歩であり、運用が重要となります。対策の実行に当たっては、国から地域に対し、丁寧な説明と的確な情報提供を徹底することが重要です。日本医師会としても、地域医療を守っていく立場から積極的に関わっていく所存です。

国民の幸福の原点は健康であり、病に苦しむ人がいれば、何としても助けたいというのが医療人の願いであり、私たちの願いは、「必要とする医療が過不足なく受けられる社会づくり」に尽きます。

2 月上旬にオホーツクの紋別へ行き、へき地の

医療を視察させていただきました。せっかくなので、一番寒い時に行かせていただきましたが、その地域にしては思いのほか暖かい日で、朝はマイナス 9 度で、午後にはプラスになるぐらいの温度でした。

そこでは、人口減少と医療職の不足が顕著であり、約 200 床の病院がありましたが、そのうち 70 床しか稼働しておらず、年間 5 億～10 億円の赤字とのことでした。眼科、耳鼻科、皮膚科等の医師がおらず、産科も同様で出産もできません。出産や高度急性期は 50～60km 離れた別の医療圏に送っているとのことでした。

最近、開業医の子どもの 2 人の医師が帰ってきて、地域医療を支えているとのこと、激励させていただきました。地域偏在を考えると、何らかの仕組みをもって適正な医師の配置も考えないといけないのかもしれない。

また、このような眼科、耳鼻科、皮膚科等の医師がいない地域において、総合診療医のあり方や Doctor to Doctor のオンライン診療のあり方も考えていかなければならないと考えているところです。

あわせて、患者さんや地域住民の皆さまの医療に対する理解を深める必要もあると思います。

本日、「医師の地域偏在」をテーマにして、このシンポジウムが実現いたしましたことは、意義深いことと思います。

ご案内のように、本日は世界医師会事務局長の

オトマー・クロイバー先生、ベストセラージャーナリストの河合雅司先生、聖路加国際大学学長の福井次矢先生をお招きし、ご講演いただきます。

当初、ドイツからガッセン ドイツ連邦保険医協会会長をお招きする予定でしたが、ドイツにおいて、医療制度改革における重要な法案を控えていて招聘が難しくなったこともあり、世界医師会より、同じドイツ人であるオトマー・クロイバー事務局長にお越しいただきました。

またパネルディスカッションでは、厚生労働省政策参与の武田俊彦先生に座長をお願いし、3人の先生方に、様々な角度から忌憚のないご意見を賜りたいと思います。

このシンポジウムが実りある成果を収めることを祈念するとともに、皆さま方の多大なるご協力に厚く御礼申し上げます。

結びに、本日ご来会の皆様方の一層のご活躍、ご健勝を祈念いたしましてご挨拶といたします。